

## 「JENESYS2.0」

### 第19回中国教育関係者代表团

訪問日程 平成26年12月2日（火）～12月7日（日）

#### 1 プログラム概要

中国日本友好協会が派遣した第19回中国教育関係者代表团計63名が、12月2日から12月7日までの5泊6日の日程で来日しました。（団長：王占起（オウ・センキ）中国日本友好協会・政治交流部部長）

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、日本の教育関係者との交流をはじめとしたプログラムのほか、各種教育機関訪問・視察、伝統文化体験、地域見学等を通じ、クールジャパンに直接触れ、日本に対する包括的な理解を深めました。

#### 2 日程

##### 12月2日（火）

成田空港着、パナソニックセンター東京視察、オリエンテーション

##### 12月3日（水）

品川区立小中一貫校豊葉の杜学園訪問・視察・教員との交流、文部科学省ブリーフ、浅草寺見学、歓迎会

##### 12月4日（木）

渋谷教育学園幕張中学校・高等学校訪問・視察・教員との交流、関西へ移動、和風温泉旅館で日本文化体験

##### 12月5日（金）

大阪教育大学附属高等学校平野校舎訪問・視察・教員との交流、大阪府教育委員会との懇談会、商業施設視察

##### 12月6日（土）

京都へ移動、嵐山・金閣寺見学、日本文化体験（友禅染）、大阪へ移動、歓送報告会

##### 12月7日（日）

大阪城見学、関西空港より帰国

### 3 写真

	
<p>12月2日 オリエンテーション(東京都)</p>	<p>12月3日 品川区立小中一貫校 豊葉の杜学園訪問・交流(東京都)</p>
<p>12月2日 説明会(東京都)</p>	<p>12月3日 訪問品川区立小中一貫校 豊葉の杜学園・交流(東京都)</p>
	
<p>12月3日 品川区立小中一貫校 豊葉の杜学園訪問・交流(東京都)</p>	<p>12月3日 文部科学省ブリーフ(東京都)</p>
<p>12月3日 訪問品川区立小中一貫校 豊葉の杜学園・交流(東京都)</p>	<p>12月3日 文部科学省講座(東京都)</p>
	
<p>12月3日 歓迎会 朱丹中国日本友好協会副秘書長の挨拶(東京都)</p>	<p>12月3日 歓迎会 川田勉外務省アジア大洋州局中国・モンゴル第一課地域調整官の挨拶(東京都)</p>
<p>12月3日 歓迎会 朱丹中国日本友好協会副秘書長致辞(東京都)</p>	<p>12月3日 歓迎会 川田勉外務省大洋州局中国・蒙古第一課地域調整官致辞(東京都)</p>



12月4日 渋谷教育学園幕張中学校・高等学校訪問・交流（千葉県）



12月4日 渋谷教育学園幕張中学校・高等学校訪問・交流（千葉県）

12月4日 访问涩谷教育学園 幕張初中・高中・交流（千葉県）

12月4日 访问涩谷教育学園 幕張初中・高中・交流（千葉県）



12月5日 大阪教育大学附属高等学校平野校舎訪問・交流（大阪府）



12月5日 大阪教育大学附属高等学校平野校舎訪問・交流（大阪府）

12月5日 访问大阪教育大学附属高中平野校舎・交流（大阪府）

12月5日 访问大阪教育大学附属高中平野校舎・交流（大阪府）



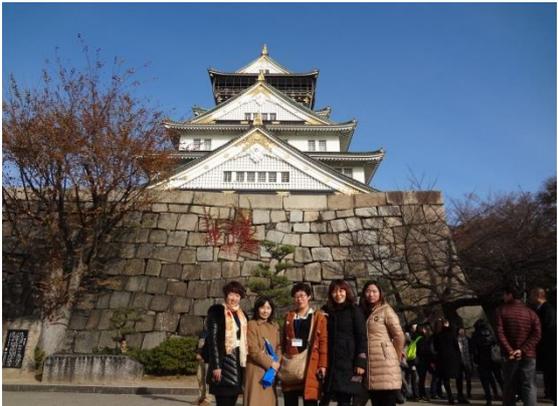
12月5日 大阪府教育委員会との懇談会（大阪府）



12月5日 大阪府教育委員会との懇談会（大阪府）

12月5日 与大阪府教育委员会座谈（大阪府）

12月5日 与大阪府教育委员会座谈（大阪府）

	
<p>12月6日 嵐山、周恩来元首相の詩碑見学 (京都府)</p>	<p>12月6日 金閣寺見学 (京都府)</p>
<p>12月6日 参观岚山和周恩来总理诗碑 (京都府)</p>	<p>12月6日 参观金阁寺 (京都府)</p>
	
<p>12月6日 日本文化体験 (友禅染) (京都府)</p>	<p>12月6日 歡送報告会 王占起団長挨拶 (大阪府)</p>
<p>12月6日 体验日本文化 (友禅染) (京都府)</p>	<p>12月6日 欢送报告会 王占起团长致辞 (大阪府)</p>
	
<p>11月25日 歡送報告会 訪日成果報告 (大阪府)</p>	<p>12月7日 大阪城見学 (大阪府)</p>
<p>11月25日 在欢送报告会上汇报访日成果 (大阪府)</p>	<p>12月7日 参观大阪城 (大阪府)</p>

#### 4 参加者の感想（抜粋）

- 1. 環境が非常に清潔で、国民の一般的教養が高い。
2. 日本の学習指導要領は、次の20年間の教育目標に向けて10年に一度改定されており、将来の優れた人材を育成している。現行の学習指導要領は学生の“生きる力”の育成である。この“生きる力”という言葉をはじめて見た時、私は驚愕した。“生きる力”とは、言葉にすれば簡単だが、“確かな学力、豊かな心、健やかな体”が備わっていないといけない。
3. 日本の私立学校は多くが非常に優秀な学生を受け入れ、国際的にも多くの私立大学と連携しており、中国とは対極にある。日本の私立校は週6日制であり、渋谷教育学園幕張中学校・高等学校では“自調自考”を校訓とし、問題の発見、問題の提起、問題の発表、問題の解決能力を育成しており、自由な校風である。私は、今後の日本はこの面ではますますアメリカに近くなると思う。しかも、日本では社会と伝統文化の教育を非常に重視しており、民族や国家の榮譽や忠誠の観念が強くあり、これはすごいことだと思う。
4. 訪問したどの学校でも、具体的な指導方法の面で学ぶ点が多くあった。例えば、品川区立小中一貫校豊葉の杜学園の“異学年交流”は、新学期の最初の一か月、6年生が1年生と一緒に登下校し、給食を一緒に食べ、1年生に基本的な生活常識を教える。児童に人との付き合い方を互いに学ばせあうのだ。

○ 今回の訪日を通じて、日本の初等中等教育を十分に理解することができた。今回の交流学习を経て、周囲の人々にまず紹介したいことは、日本は教育の過程において細心の注意をはらい、学校のすみずみまで教師たちの独創性があふれているという点である。次に、教師たちの教学への情熱は我々も学ぶべきだという点である。これと同時に、学生の行動や習慣に対する教育は、我々とは比較することができない。日本の学生の行動や習慣の育成は、学校だけでなく、家庭環境も子供の成長に極めて重要な役割を果たしている。我々も家庭との連絡を密にし、保護者にも我々の教育をサポートしてもらい、共に子供の将来のために良い成長の基盤を作り上げていくべきだ。

我々自身も教師として、個人の素養のたゆまぬ向上をよりいっそう重視し、専門分野の強化だけでなく、自分自身の優れた点や長所を生かし、授業の合間の時間に生きる力を子供たちに伝授していくべきである。結局のところ、学生はまず生きることができて初めて、より良い発展が模索できる。ただ勉強ができるだけの子供は、一人前の人間とは言えないのである。

最後に、より多くの優れた教師が機会に恵まれ、日本の教育の優れた点を学び、中国の教育の為にその微力を尽くすことを願う。

○ 最も印象深かったのは、日本国民の一般的教養の高さである。熱心に我々の受け入れ業務をしてくれたスタッフをはじめ、訪問した学校の教師や学生、街角で出会った人々のすべてが、謙虚で礼儀正しく、規則をきちんと守り、真面目に事を行い、慎み深い。彼らは公共の場所ではまず社会の道徳を考え、他人の心情を考え、社会環境は整然としている。彼らと交流する時間が増えるほど、自分自身に対する要求も厳し

くなるのを感じた。こうした骨の髄まで染みついた資質が、大きな良い循環を持つ教育環境となり、次世代の青少年の成長に影響を与えている。これにより、国家を向上発展させている。

日本は環境、教育、経済、科学技術などの面では長期的視野に立って目先の成功を焦らない。未来に着目し、各分野の持続可能な発展を重視している。例えば、環境保護への投資、海岸を埋め立てて生存空間を拡張する、教育目標を将来の発展におく、などがそれである。

帰国後、周囲の人々に、中日両国の友好の気持ちを伝えたい。自分自身が直接感じたことを伝えることで、両国国民の友情を増進したい。自分が見た日本人の一般的教養の高い現状を周囲の人々に伝え、日本人の現状を自分の教育の努力目標として、自分の仕事を改善したい。また、日本の教育事業における有益な手法を紹介し、相互理解を深め、長所を生かして短所を補いたい。このほか、日本のハイテク製品と伝統文化にも、比類なく優れている点があることを、より多くの人に紹介したい。

日本では、文部科学省から地方自治体の教育主管部門まで、教育改革の面で先駆けであることが分かった。質疑応答や講義において、何度もグローバル人材育成に関する内容があった。グローバル化社会における将来のグローバル人材を育成することの重要性が着目され、相応の対策が取られている。

また、日本ではほとんどの国民が自覚を持って規律を守り、態度がまじめであるという背景には、彼らが受けてきた教育が切り離せないことにも気付いた。学校、家庭、社会の三者の教育目標が一致し、子供の習慣の育成や価値観の形成において、その要求や手本が一致しており、教育効果が非常に顕著である。且つ、実践を重んじ、ボランティアや修学旅行などの実践の機会を作り、学生に自ら体験させている。

○ 訪問した3校とも、念入りに受け入れプログラムを組み、大歓迎してくれた。さまざまな方法で各自の教学の特色や教学理念を紹介してくれた。特に、品川区立小中一貫校豊葉の杜学園では、子供たちの笑顔と素晴らしいパフォーマンス、清潔できちんと整理された教学環境などが、強く印象に残った。

各学校との交流を通じて、教学教育における新たな手法を学ぶことができた。相互理解を深め、一定程度の共通認識を得ることができた。今回の訪日を契機に、日本での見聞や感じたことをより多くの人に伝え、教育分野では長所を生かして短所を補い、中日双方の平和と友好発展に貢献したい！

○ 来日前、本音を言えば、日本人は非常に“恐ろしい”民族だと考えていた。これは国内で受けていた一部の教育や世論と関係があるだろう。家の車や電化製品はみな日本のブランドでありながらも、日本人を排斥する気持ちがあった。

日本に着いてからは、経済発展や都市の繁栄もさることながら、日本人の仕事ぶりや生活に対して、天地を覆すほどの大きな認識の変化があった。

日本がわずか数十年の間に急速に発展したのには理由がある。それは、日本人の粘り強さと意志の強さである。わずか数日の間、私が出会った日本人にはすべて共通の特長があった。それは、熱意、一生懸命、高い一般的教養である。これらの特長が一

体化して日本人の共通認識を形成し、日本の発展を成功させたのだ。

中国を振り返ると、今まさに発展改革の時期にあり、国内で提唱されている中核的価値観をより深く考えさせられ、教育が民族の発展に与える重要な役割をいっそう強く意識させられる。数日間の日程は短いものだが、その収穫は無限である。私はこの日本の民族を愛してやまない。日中関係にはあれやこれやの問題があっても、日本人は平和を熱愛している。文化に国境はなく、平和を愛する気持ちは両国民の求めるものだ。この二つは、両国民を堅く結びつける。

中日両国は一衣帯水であり、共に漢字を使用する。私は中国の基礎教育従事者のひとりとして、自身の力をもってこの数日間に見聞したこと、真実の日本を周囲の人々と学生に伝えたい。中日友好の使者として、両国民の友情に自身の力で貢献したい！

○ 日本人は仕事に対して真面目でゆるぎない態度で取り組む。

日本人は客を心から歓迎し、友人のように誠意を持って対応する。

日本の先進的な教育の経験、教育理念。例えば、国際化の教育理念、国際的人材の育成といった理念は、中国ではほとんど聞いたことがなく、参考になる。

日本の学生も学習に対するプレッシャーが大きい。しかし、文部科学省や学校が多様なカリキュラムを開設し、学生生活も豊かであり、こうした状況が学生の勉強嫌いを減少させている。

学習に障害のある学生に対して、日本では学生を尊重して独特なカリキュラムを開設し、数名の先生とアシスタントが知識学習をサポートしている。子供たちもこうした授業がとても楽しく、学習への興味も高い。私は非常に感動した。

日本の経済は繁栄し、国民の素養も非常に高い。どの道路にも車両は静かに整然と並んでいる。日本人は秩序を遵守し、意識が極めて高い。

温かくもてなしてくれた日本人に感謝する。帰国後、私はこれらの長所を友人たちに紹介しようと思う。ありがとう！

○ 最も印象深かった事：

1. 大阪府教育委員会との懇談会において、経済困窮家庭への対応策と福祉政策により、学生の家庭環境や教育水準を改善するという説明があった。この政策は非常に参考価値がある。我々も日常の教育現場において、学生の問題はそのほとんどが家庭の問題に行き着くことが多いが、教育は社会全体で共に努力すべきである。この懇談会は非常に素晴らしかった！

2. 品川区立小中一貫校豊葉の杜学園を訪問した際、校長先生から現場の先生にいたるまで皆さんの苦労を感じた。学生の管理は容易な事ではないが、先生方は努力によって学生たちに愛情あふれる雰囲気を作り出していた。学生たちはきっとこの学校で楽しい子供時代を過ごすと思っている。

3. 日本は学生の生きる力の育成を非常に重視しており、カリキュラムにも独自性がある。

伝えたい情報：

1. 日本は長い歴史を持つ国であり、文化の裏付けがあり、独自の文化の特色を持つ国である。
2. インフラが整っている。都市計画と管理の水準が高い。
3. 一般の中国人が日本の日常生活を知り、一般の日本人が中国の日常生活を知るよう、相互理解を深めるべき。
4. 共にグローバル化の波にさらされている国として、相互交流を深め、共通点を見つけ、異なる点は尊重し、共に発展するべきである。
5. 教育においては互いに学びあい、有益な経験を参考にする。

○ 小中一貫校、中高一貫校の訪問や、文部科学省の講義、大阪府教育委員会との懇談会を通じて、日本の進んだ教育理念や目標を理解し、さらに彼らがその取り組みのために尽くしている努力を知った。特に特殊教育への取り組みは強く印象に残り、彼らはどのような子供でも放棄しないのだと強く感じた。

○ 今回の訪日では3カ所の学校を訪問した。品川区立小中一貫校豊葉の杜学園では、情熱的で快活な子供たちがその才能を発揮して熱烈歓迎してくれ、心から感動した。授業参観では先生たちの多様な教学手法や、子供たちが積極的に参加している様子を見て、私たちも勇気づけられた。特殊学級の学生に対する先生の熱意、忍耐強く導く姿に感銘を受け、学校がすべての子供に注いでいる関心と愛情を感じた。

このほか、2校の中学・高校を訪問した。環境や教員は異なっても、2校とも学生の能力に対する要求もその成績水準もとても高く、教育への重視を感じるに十分だった。学生たちが自主的に、積極的に物事に取り組む姿勢を見て、自らの責任を強く実感した。日本から真面目、着実、積極、努力という精神を持ち帰り、教え子を導き、小さなことから着手し、細部にも気を配り、夢の実現に向け努力を続けたいと感じた。

最後に、日本側がこのような貴重な学習の機会を提供してくれたことに感謝したい。日本の美しい環境、科学と人との融合を体験することができ、日本人の生活と仕事を知ることができ、日本に対する新たな認識を得ることができた。

○ 最も印象深かった事：日本人は物事の実施が秩序的で、時間配分もきちんとしていいる。どのような事柄にも同じようにゆるぎなく取り込むことは、学ぶに値する。礼儀や規律を守る面でも、自らを律する点は見習うべきだ。

歓送報告会で、思いがけないことがあった。日本滞在中に誕生日を迎えた教師を日本側事務局が祝ってくれ、誕生日プレゼントまで用意してくれた。故郷から遠く離れた地にあつて、まるで家族のように思い、在席の教師たちはみな目頭を熱くした。ひとつの小さなイベントから、人に対する優しさと友好を感じた。歓送報告会は楽しい雰囲気の中終了し、今回の訪日に円満というピリオドを添えてくれた。

帰国後、考えていることは非常にたくさんあり、学ぶべき事柄もたくさんあった。日本の教育現場で、中国の古典文化に関する授業を行っていることは、我々も学ぶべきである。古典文化は深く厚い裏付けがあり、中国でも現在、学生への伝統文化教育

を非常に重視している。継承だけでなく、発揚にもつながるものである。文化には境界も国境もなく、世界そのものだ。

国際間の交流は、学生の国際社会への適応能力の育成に非常に役に立つ。この面では、我が国の学生も常にこうした活動をしている。この面では目標は一致している。日本人の謹厳さ、日本人の礼儀、日本人の情熱は、我々にも伝わった。

○ 初めて日本を訪れ、清潔な環境やきれいな空気、青い空、白い雲が、強く印象に残った。滞在の日がちが経つにつれて、これは日本国民の真面目さや自己規律の強さと切り離せないものだと分かってきた。これは国の教育に大きく関連している。

学校訪問の際、日本の学校のどの図書館にも『三国志演義』や『西遊記』など、日本の学生も好む中国の名著があることに注目した。先生の説明によると、週一回、漢文の授業があり、学生は孔子、孟子、老子、荘子の思想に興味があり、学校もこうした文化の薫陶を重視しているとの事だ。中日文化の悠久の根源を示すに十分と言える。

文部科学省のブリーフと大阪府教育委員会の懇談会で強く印象に残ったのは、グローバル人材育成に対する努力である。第一に英語教育の改革、第二にスーパーグローバルハイスクールの創設である。帰国後、私は自身の勤める学校にこの点を重点的に紹介しようと思う。国際化は中国の教育においても重要な課題である。

また、日本人の熱意やおもてなしも深く印象に残った。繊細でおいしい食事や、親切で細やかなサービスはいつまでも忘れられない。とりわけ、歓送報告会で中国教師の誕生日を祝ってくれたことは、いっそう日本人の情熱を感じさせてくれた。

今回の訪日は視野を大きく広げさせてくれ、自身の教学思想を充実させてくれた。帰国後は、日本での交流のひとコマひとコマを十分に消化し、自身の職業人生の宝とし、教学の現場に溶け込ませていきたい。

○ あっという間に、訪日期間も終わろうとしている。今回の訪日で、生涯忘れられない印象と大きな感動が残った。

日本の印象をキーワードにまとめると、清潔、静か、発達、礼儀、謹厳である。

今回の訪日で日本に対して認識を新たにし、心から日本が好きになった。日本の環境、なにより日本人が大好きである。機会があればまた来訪し、日本の文化に触れたいと思う。

日本を愛し、中日両国の更なる友好を願う！相互に促進し、相互に学習しよう！

○ 今回、3校の学校を視察する機会に恵まれた。公立小学校、私立の中高一貫校、公立の中学・高校である。どの学校も例外なく、教学理念に他人を愛しその人の気持ちを考える事や、交流を重視する考えが盛り込まれている。彼らの教育は誠実で真面目ではあるが厳しくはなく、真実であり自然である。先生方は一生懸命で職業意識が高く、学生は努力し責任感がある。知識が多面的であり、生きる力の育成を重視している。小学校から中学までは家庭科があり、料理や裁縫、生活技能を学び、修学旅行も行う。さまざまな交流や、留学等々、彼らの生活は多彩である。彼らの教育は多くが身をもって手本を示し、環境によって感化することで、学生に礼儀やマナーを身に

着けさせ、いつの間にか物事に真面目にゆるぎなく取り組む姿勢が作り上げられる。今回の訪日で一番感じたことは、学生に他人への尊重と配慮をきちんと身に付けさせ、本当の配慮と尊重からはじめて、感化できる社会環境を作り上げていく、という点である。